

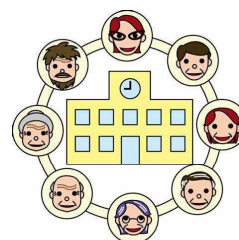
頑張る学校・地域！応援プロジェクト 通信

No.1 2020年10月22日(木)

発行責任者 下野市立国分寺中学校 教頭 生井厚志・地域連携教員 石崎真清

「頑張る学校・地域！応援プロジェクト」とは

新学習指導要領の理念である「社会に開かれた教育課程」を実現するため、「地域とともにある学校づくり」及び「学校を核とした地域づくり」への支援を一体的に行うことにより、子どもたちの豊かな人間性や主体的に考える態度を育むとともに、子どもたちの学びを支える地域の教育力の向上を図ることを目的として、栃木県教育委員会、各教育事務所及び栃木県総合教育センターが実施主体となって行われる事業です。



本年度から始まった事業で、本校が「学校と地域の連携推進モデル事業実践校」に指定されました。学校だより「いしずえ」でもお知らせした通り、何回かの会議を経て、本年度の本校の事業計画を策定しました（詳しくは学校だより「いしずえ」第9（10月1日）号をご覧ください。学校のHPでもご覧いただけます。）。

学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの学びや成長を支え、子どもたちがこの国分寺という地域に誇りをもち、健やかに成長できますようご協力よろしくお願い申し上げます。

少子高齢化の流れの中で、地方・地域の将来を考えたとき、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支える地域教育の仕組みづくりが喫緊の課題となっている社会情勢の中から、地域と学校が連携して子どもを育てる必要性が叫ばれるようになりました。

「地域学校協働活動」とは、地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動です。

子どもたちの成長を軸として、地域と学校がパートナーとして連携・協働し、意見を出し合い学び合う中で、地域の将来を担う人材の育成を図るとともに、地域住民のつながりを深め、自立した地域社会の基盤の構築・活性化を図る「学校を核とした地域づくり」を推進し、地域の創生につながっていくことが期待されます。例えば、子どもたちが地域に出て行って郷土学習を行ったり、地域住民とともに地域課題を解決したり、地域の行事に参画してともに地域づくりに関わるといった活動があげられます。（下野市社会教育委員会議；「地域学校協働活動の具体的取り組みに関する提言」令和2年3月より）

この通信を通して、本事業に関する情報や実践の紹介などを行っていきたく思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

読み聞かせボランティア・サークルの方々に来校していただき、
読み聞かせの指導をしていただきました

現在国分寺小、国分寺東小には、それぞれ読み聞かせのボランティア・サークルが読み聞かせを行っています。

- ・国分寺小 …読み語りサークル「むくの木」様、語り部「ゆうがお」様
- ・国分寺東小…「ほがらか文庫」様
「おはなしポケットの会」様

しかし、学級数に対して人数が足りない

ことが近年の課題になっていました。そこで、ボランティア・サークルの方をお願いし、国分寺中生に対し読み聞かせについての指導を行い、やがて、スキルを身に付けた中学生がボランティア・サークルの方と一緒に読み聞かせを行えば、課題解決の一助になるのではないか。また、読み聞かせを聞いていた小学生が中学生になり、地域のボランティア・サークルの方から指導を受け、今度は小学生に読み聞かせを行う、小学校、中学校、地域が一体となった息の長い活動ができるのではないかと考え、「中学生とボランティア・サークルによる小学生への読み聞かせ」を計画しました。



決の一助になるのではないかと考え、「中学生とボランティア・サークルによる小学生への読み聞かせ」を計画しました。

10月5日(月)、中央委員会において、国小、国東小の読み聞かせボランティア・サークルの方々に中学校に来校していただき、読み聞かせについて、本の選び方や持ち方等の基本から丁寧にご指導をいただきました。

また、実際に読み聞かせを行っていたくと、生徒達は実際に自分たちが小学生に読み聞かせを行う姿をイメージしながら、真剣に聞き入っていました。

次回11月16日(月)には、実際に中学生が読み聞かせの練習を行い、12月以降に小学校を訪問して読み聞かせを実施する予定です。

